

八王子芸妓衆や八王子車人形が観られる！

伝承のたまてばこ

～多摩伝統文化フェスティバル 2022～

9/17(土)・18(日)開催

【主催】(公財)東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、
八王子市、(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団

詳細はホームページにて随時更新中！



—この度は、国重要無形民俗文化財指定おめでとございます。お気持ちを聞かせていただけますか？

平成8年に国選択無形文化財となつてから、次は重要無形民俗文化財が目標でもありました。肩書が付くと、どうしても「伝統を守らなければ」と思つてしまいがちですが、我々は常に次の世代を活かしていくというのを忘れてはいないと思つています。こういう時代に文化財に指定いただいたことにこそ価値がある。これを機会に改めて引き締めて、恐れずに色んな作品にチャレンジしていきたいですね。

—財団事業でも、車人形でオペラの主人公を演じていただいたり、ダンスとコラボレーションしたりと、革新的な取り組みで活躍いただいていますね。

我々には、従来の車人形の使い方や音楽など、逃れることのできない枠があつて、古

八王子芸妓衆
置屋 ゆき乃恵

八王子車人形
西川古柳座
五代目家元
西川古柳



特 集

みらいへ紡ぐ芸の技と心

令和2年、日本遺産に認定された八王子の「桑都物語」。

構成文化財となった、八王子の文化を語る上で欠かすことのできない伝統芸能「八王子芸妓衆」と「八王子車人形」を代表して、八王子芸妓衆 めぐみさん、八王子車人形 西川古柳さんにお話を伺いました。

八王子芸妓衆めぐみさん インタビュー

八王子は、宝箱のような街

—八王子芸妓衆の最近のご活動についてお聞かせください。

コロナ禍でお座敷が減つてしまった分、お稽古を丁寧にしたりと、若い子たちの発想を借りながら、SNSで発信するようにもなりました。令和3年に開催した「八王子をどり」でも、配信や副音声付きDVD制作に挑戦したり、今までになかつた動きも増えましたね。

—令和2年に「桑都物語」が日本遺産に認定され八王子という街を改めて知るきっかけにもなりました。めぐみさんにとって、八王子という街はどういう街ですか？

自然や歴史、芸能など、色々なものが沢山詰まった、宝箱みたいな街だなと思います。

私は地元つ子で八王子しか知らないけれど、それでも年を重ねるごとに新たな一面に気づかれますね。まだまだ知られていない魅力があるそんな街だと思います。

—伝統を継承しながら、常に新たな挑戦を続ける八王子芸妓衆ですが、大切にしていることはありますか？

ありがたいことに、いつも外から色々なチャンスを与えていただいています。最近も、屋外でクラシック音楽とのコラボや、アメリカのギタリストと映像作品をつくる機会がありました。日本舞踊という一つの表現ですから、実はどんな音楽とも合わせることでできるし、そこから新たな世界が生まれるということも実感しています。私が「やつてみよう」とすぐに飛びついてしまうタイプで(笑)、チャンスを与えていただいた時に「こうしたらできるかも」と提案しながら「一緒にできる方法を探していくのはとても楽しいです」。

—当財団事業でも平成24年度に上演したオペラ「蝶々夫人」へのご出演など、様々な場面で活躍いただきました。特に印象に残っていることや思い出はありますか？

オペラに出演した時は、本当にびっくりすることばかりでした。今思い返してもすごいことが実現したなど。オペラはある意味一番遠いところにある世界だと思つて、いたし全然知らないからこそ逆に先入観はありませんでした。「蝶々夫人」では当時立場の弱かった、芸者、という儚い存在が題材で、その物語を壮大な音楽と歌で綴るということに大きな感動を覚えました。もちろん大変なこともありましたが、指揮をされた西本智実さんに初めてお会いしてお話した時から、ずっとリスベクトの気持ち

八王子車人形 西川古柳さん インタビュー

八王子は、柱のある街

柳座の中からその枠を超えることはなかなか難しい。それでも、外から可能性を感じるきっかけをもらつて、我々のいるエリアの枠の外に、ようやく出ることができるようです。

—伝統として守っていくことと、新たな挑戦とのせめぎ合いはありますか？

いつもそこにはすごく葛藤がありますね。例えば人形を「人形」として扱うのか、モノとして扱うのかについて。我々としてはやはり人形として扱って欲しいわけなんです。が、それだけにこだわると新しい価値は生まれなくなってしまう。いかにして人形を生かしたうえで人形を飾り、道具として扱う演出を実現するのか。そういうことを考えて挑戦するのが、人形遣いとしての一つの使命だと思つています。

—古柳さんにとつての「八王子」とはどういう街ですか？

八王子って、柱がしっかりしている街だと思ふんですね。全国あちこちに旅をしても、これだけの文化のストーリーを抱えている土地というのは他にないんです。文化というのは自然の中で生まれることが多いものです。文化を常に楽しめる拠点があつて、そこには八王子の自然や空気が伝わるような、文化と自然が調和する、そんな場所ができたら、と考えたりしますね。

—八王子車人形の、今後の展望をぜひお聞きたいです。

伝統文化というのは、どこも後継者の問題を抱えていますよね。私たち、はじめは一生懸命「後継者をつくらう」としていましたが、でも今は「応援してくれる人をつくることを意識して、いって、必ずやそこら」使



八王子芸妓衆 めぐみ

古くから織物業で栄えた八王子で発展した花柳界で、中町を拠点に地域活性、文化継承に力を注ぐ。

があつて。本当に素晴らしいチームの皆様だったのでこそ実現したのではないでしょううか。

—八王子芸妓衆のこれからについての思い、挑戦したいことはありますか？

今ほどの花柳界も担い手が少ないのが現状ですが、大学を出て就職した後にこの世界に飛び込んでくれる人なんかもいて、本当にありがたいと思つています。

少し夢のないお話かもしれませんが、若い世代に「仕事」として安心して選択してもらえるような環境をつくるのが課題だと思つています。例えばお給料とか保険とか…職業として続けていけるような基盤を、何とか私たちの世代でつくるべきだという考えがあります。

芸者というのは日本に昔からあるおもてなしのお仕事で、もちろん芸として技術の向上はありますが、それに伴つて「精神の研鑽」「心の修練」に楽しさを見出すことができたなら、一生、何歳になつても続けていけると思ひます。一番の魅力は、毎日が違うこと。色々な方にお目にかかれるのはこのお仕事だからこそですし、色々な方に人生を豊かにしていただいているなと感じます。その度に学びがあつて、興味がどんどん広がっていく…その楽しさを、これからも広げていきたいですね。



伝統を受け継ぐ次世代をご紹介します



八王子車人形
西川古柳座
五代目
西川柳玉さん

西川古柳座の若手座員として、独自の感性を発揮し活躍する西川柳玉さん。五代目西川古柳の元に生まれ、平成30年に五代目西川柳玉を襲名しました。「伝統芸能を広く知ってもらいたい」と始めたYouTubeチャンネルの動画は、ど

れもユニークなものばかり。解説動画は、人形たちのショートムービー、「歌ってみた」シリーズ、更には「腕がちぎれるまで人形を遣い続ける生配信」(!)など、新たな可能性を感じさせてくれます。 YouTubeはこちら▶

伝統を受け継ぐ次世代をご紹介します



八王子芸妓衆
置屋 ゆき乃恵
すずめさん

多摩地域で唯一残る花柳界で、置屋「ゆき乃恵」に住み込み、日々稽古に励むすずめさん。伊豆諸島の神津島で育ち、短期大学で日本の古典文化を専攻。一度は企業に就職したものの、三味線や踊りなど、大好きなものが詰まった“芸者”というお仕事がある

ことに気付き、令和2年冬に一念発起。芸者の世界に飛び込みました。ゆき乃恵で家族のような繋がりのもと芸を学ぶすずめさんは、「ずっと憧れだったお姐様方に刺激を受け、日が経つにつれて頑張りたいという思いが増しています」と語ってくれました。